

葉山町立上山口小学校

研究テーマ：探究的な学びから、つながりあい高めあう子どもをめざして
～聴き・考え・表現することを通して～

1 実践の目的

本校では、これまで、学校教育目標「かしこく・なかよく・たくましく」を掲げ、教育活動全体を通して「つながりあい高め合う子どもを目指して」を目標にした研究を行ってきた。

本年度は、小中連携を視野にいれながら、低学年の生活科および、中・高学年の社会科との教科横断的な学習としての総合的な学習の時間について、ブロック研究を行ってきた。研究授業を通して、探究的な学びづくりとカリキュラム検討をおこない、指導の在り方について研究を進めた。

2 実践の内容

低学年・中学年・高学年の3ブロックで研究を行った。目標に沿ったカリキュラム作りを行いながら、ブロックで一つ研究授業を行った。

(1) 低学年ブロック研究

①教科 生活科

②単元名 あきとなかよし

③単元目標

- ・秋の自然を、五感を使って観察したり、自然物を使って遊んだりする活動を通して、秋の特徴や他の季節との違いを見つけることができる。

④目標達成の手立て

- ・五感をつかった体験を通じた学習の設定。
- ・ワークシートの活用。
- ・「みなさん、きいてください。」と言ってか



ら自分の考えを話す習慣づけ。

⑤手立てによる成果

- ・心が動き、より良い思いを持たせられた。
- ・写真入りワークシートにより、良さや改善点の記入・整理・分析を円滑にできた。
- ・教育活動全体を通して聞く態度と意識が育った。

(2) 中学年ブロック研究

①教科 総合的な学習の時間

②単元名 すがたをかえるたのくろ豆

～たのくろ豆で何作ろう～

③単元目標

- ・4年生から譲り受けたたのくろ豆を栽培することを通して、豆の成長の様子を観察したり、育成の工夫を考えたりする。
- ・興味関心のあるテーマについて進んで調べたり、自分の考えをまとめたり、調べた内容や自分の考えを深めたりして、適切に表現できる。
- ・たのくろ豆を栽培している農家の方との交流や、調べ活動を通して、豆の良さを発信できるようにする。

④目標達成の手立て

- ・他教科との連携による必要な技能の習得と活用。
- ・視覚に訴える掲示物。
- ・ワークシートを活用した振り返り。

⑤手立てによる成果

- ・話の聞き方、意見の述べ方、要点のとらえ方、相手に伝わりやすい言葉の選び方等を他教科との関連で習得させ、活用させるこ

とができた。

- ・視覚的な支援を増やしたことで、学びの道筋が明確になって活動に集中できた。

(3) 高学年ブロック研究

① 教科 総合的な学習の時間

② 単元名 棚田イベントを開こう～棚田の魅力をつなげる・伝えていくために～

③ 単元目標

- ・棚田で伝統的に行われている米作りの特徴について理解できる。
- ・米作りに関わる人々が棚田での米作りを伝統として残そうとしているのか、その思いに気づくことができる。
- ・棚田の米作りで体験したことや、米作りに関わる人々の話をもとに、棚田の魅力について考えをまとめ適切に表現する。
- ・棚田の魅力をどのように伝えていくか、具体的な方法を考え、表現する。
- ・学習を通して、地域に関心を持ち、地域の良さについて考えを深めたり、発信したりしようとする。

④ 目標達成の手立て

- ・思考ツールの活用。
- ・ふりかえりの時間の確保と活用。

⑤ 手立てによる成果

- ・思考ツールの活用により考えを整理し、明確にして、考えを深めることができた。また、友だちの思考ツールの共有により、他者の考えに触れてより考えが深まった。振り返りの時間を確保し、自己に向き合うことで、成果と改善点が明確になった。

3 実践の成果

- ・今年度は、小中一貫教育の推進、並びに、小中一貫カリキュラム作成の推進のため、「探究的な学び」という共通テーマを校内研究に据えて、校内研究を行うことができた。

- ・発達段階や学年の実態に沿って、「整理・分析」「まとめ・表現」の手立てを工夫して学びのサイクルをデザインする試みを行えた。
- ・各教科と総合的な学習の教科横断的な学習を扱うことで、学びの連続性を意識したカリキュラム作りや行事の精選等、学校全体で検討し進めていくべき課題が明確になった。
- ・目標達成の手立てを明確に示して授業研究を行うことで、児童の実態とねらいに沿った成果を上げることができた。
- ・外部講師を招いて、「探究的な学びとICT活用」「探究的な学びとFEEL度WALK」について研修を行い実践に活かした。
- ・「開校150周年記念全校FEEL度WALK集会」を行い、自分の通う学校の良さを発見することができた。
- ・オブザーバーに各ブロックの指導案・授業動画・全体会での討議内容等を共有し、講師から指導助言を得るとともに、研究を深めるヒントをいただくことができた。

4 今後の展開

- ・来年度も、小中一貫校設置に向けて、関係各校と研究協議を行っていく。
- ・生活科・総合的な学習の時間の学びが、児童の探究的な学びの充実につながるよう研究を行っていくことが必要である。具体的には、①探究的な学びについて教師の理解と指導の在り方②探究的な学びの充実に向けた課題の洗い出し③探究的な学びの実践研究④地域の特性や資源を生かしたカリキュラム作り⑤小中学校9年間を見通した学びの在り方の模索⑥中学校区4校との情報共有といった課題を念頭に、今後も研究を進めていく必要がある。